

第4章 子ども読書活動推進のための具体的方策

1 家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 役割

子どもの読書習慣は、日常生活の中で繰り返し本に触れることで身に付きます。生活の基盤となる家庭において、最も身近な存在である保護者が、読み聞かせや本について感想を語り合うなど、本を介したコミュニケーションをとることが大切です。

子どもが本と出会い読書に親しむために、まず保護者が読書に親しみ、子どもに機会を与え、家庭の読書環境を整える積極的な姿勢が必要です。

(2) 具体的方策

① 環境の整備

- ア 各家庭で読書の日を決め、スマートフォンやテレビ、ゲームではなく、家族と一緒に本を楽しむ時間を持てるよう、家読^{うちどく}の推進を図ります。
- イ 保護者が本を通じた子どもとのコミュニケーションの大切さを実感し、より多くの家庭に本が置かれるよう、ブックスタート・セカンドブック・サードブック事業を継続して行い、家庭の読書環境整備を支援します。
- ウ 公民館などで活動する子育てサークルを対象に、市立図書館司書が出張おはなし会や読み聞かせを行うなど、地域の子どもの読書活動支援を検討します。
- エ 保護者が本に興味を抱くきっかけとなるよう、市立図書館の行事やお知らせ、ブックリストなどを掲載した図書館だよりを、各家庭に配布します。また、公共機関や民間施設などにも設置します。

② 機会の提供

- ア おはなし会や読書行事への参加を促進します。
- イ ブックスタート・セカンドブック事業の本が、より多くの親子の手に渡るよう、事業の実施方法と配布図書を見直します。
- ウ 子どもが発達段階に応じた優れた本と出会うことで読書の楽しさを知り、また保護者が子どもの読書を考える機会となるよう、サードブック事業を継続します。
- エ 地域の大人による昔ばなしの読み聞かせ会などを行い、地域文化を継承

するとともに、交流を通して子どもの読書活動を支援します。

③ 人材の育成・意義の普及

- ア 市立図書館が、保護者や地域の大人を対象に子どもの読書活動を考える講座や講演会を企画し、意義の普及を図ります。

2 保育園・幼稚園・児童センターなどにおける子ども読書活動の推進

(1) 役割

共働きの家庭や核家族が増え、今後ますます子どもの居場所として重要となる保育施設などにおいて、子どもの健全な育成を図るため、さらなる読書環境の整備が欠かせません。

生活の範囲が家庭だけでなく幼児期は、昆虫や動物、自然など、新たな世界に興味や関心が広がる年齢です。この時期に、日々の保育の中で友達や先生と一緒にさまざまな本に触れ、遊ぶことを通して本に親しむことがとても大切です。

(2) 具体的方策

① 環境の整備

- ア 年齢に応じた図書の充実に努め、市立図書館の団体貸出制度を積極的に利用します。
- イ 市立図書館からの定期巡回団体貸出を、保育園や幼稚園だけでなく、児童センターなどでも利用します。
- ウ 子どもたちが自主的に本を読んだり見たりできる読書コーナーを充実し、本を手に取りやすい空間づくりに努めます。

② 機会の提供

- ア 本を読む時間を設け、日常的に読み聞かせを行います。
- イ 市立図書館から出張おはなし会（読み聞かせやブックトーク等）を受け入れるなど、おはなし会の開催回数増加に努めます。
- ウ 誕生会や季節の行事の中で、大型紙芝居やパネルシアターなどを積極的に利用します。

③ 人材の育成・意義の普及

- ア 保育士や職員が読み聞かせや読書の必要性に関する研修会などに積極

的に参加し、保育の現場に活かします。

- イ 保護者に子どもの読書活動の重要性を認識してもらうために、親子参加のおはなし会を設けます。
- ウ 日頃から保護者と接するときに施設内での子どもの読書の様子を伝え、特に「子ども読書の日」（4月23日）や「子どもの読書週間」（4月23日～5月12日）といった時期には子どもの読書活動を周知し、推進を呼びかけます。

3 学校における子ども読書活動の推進

（1）役割

学校は、勉強する場であると同時に、集団生活を通して人との触れ合いを学ぶ人間形成の場です。社会に出ていく前段階の子どもの、生きる力を養います。

そのため、学校図書館には、読書によって豊かな知識と情操を育む「読書センター」、授業に役立つ資料を備え学習活動を支援する「学習センター」、情報活用能力を育む「情報センター」としての役割が強く期待されます。

（2）具体的方策

① 環境の整備

- ア 児童生徒の学習や興味、関心に応えられるよう魅力的な蔵書の充実を図ります。
- イ 図書資料を有効利用するため、図書資料のデータベース化を図ります。また、利用の効率化を推進するために、学校間、市立図書館と連携し、ネットワークシステムや配送システムの整備を進めます。
- ウ 児童生徒の要求に応え、読書・教育活動を支援するため、学校司書の充実や司書教諭と協力して図書館運営が行える体制づくりを推進します。
- エ 年齢に応じた本を選ぶことができるよう、学校図書館における読書相談を実施します。
- オ 本を選びやすくするため、各種ブックリストを作成します。

② 機会の提供

- ア 小学校においては、読み聞かせの時間や図書集会など読書活動の機会を増やし、児童が本を身近に感じる機会をつくります。

- イ 中学校や高校においては、図書委員会がビブリオバトル^{※7}を実施するなど、図書委員も楽しみながらさらなる活動に取り組み、生徒に読書活動の啓発を図ります。
- ウ 朝の読書を継続的に行い、読書の習慣化を図ります。また、朝の読書本の展示や紹介文の掲示、読書リレー^{※8}や読書マラソン^{※9}の実施など、朝の読書を通して本を読むことや感想を語り合うことの楽しさを体感する取り組みを行います。

③ 人材の育成・意義の普及

- ア 学校司書と司書教諭、教員が情報を共有し、連携して子どもの読書活動推進に取り組むために、学習や意見交換などを行う機会を設けます。
- イ 家庭での読書の楽しさを親子が共有し、大切さを感じることができるよう、親子読書や家読の活動を推進します。

4 市立図書館における子ども読書活動の推進

(1) 役割

市立図書館は、豊富な図書の中から読みたい本を自由に選び、本を読むことの面白さ、知識を吸収する楽しさを知ることのできる場です。保護者にとっても、子どもと本を結ぶ場であるだけでなく、自身も読書に親しみ、おはなし会などでは親子でおはなしを楽しむこともできます。

子どもの読書活動の拠点として、充実した図書の提供、読書環境の整備や読書機会の提供、関係機関と連携した、さまざまな支援などを行っていくことが求められています。

(2) 具体的方策

① 環境の整備

- ア 子どもの発達段階に応じた本や、子どもの興味や関心に応えられる本の収集、傷んでいる本の買い替えなどに努め、魅力ある蔵書構成を目指します。

※7 … 発表者が推薦図書を紹介し、参加者の投票で「一番読みたくなった本」を決める書評合戦。

※8 … 本を読み終えたら次の人へ渡し、一冊の本を何人かでリレーのように読み繋ぐ読書方法。

※9 … 読んだ本の感想をカードなどに書いてポイントやスタンプを貯めていく。読書記録になるだけでなく、感想カードから交流が生まれる読書方法。

- イ どの年代の子どもにも、図書館を身近なものにしてもらうため、乳幼児から高校生までのそれぞれの年齢に応じたイベントを企画し、幅広い世代が楽しめる環境を整えます。
- ウ 本を手にしやすくなるよう各種ブックリストを作成して市立図書館に設置し、家庭や関係機関にも配布します。
- エ 子ども向けの「図書館利用案内」や「図書館だより」の発行、ウェブサイトの公開など、さまざまな方法で情報を発信します。
- オ 市内の子どもたち（園児を含む）を対象に、図書館見学や職場体験、インターンシップの受け入れを積極的に行い、図書館を身近に感じてもらう機会を増やします。
- カ すべての子どもが図書館を利用できるよう、ユニバーサルデザインに基づき館内の整備を進めるとともに、ゆったりと本を選び読むことのできる空間づくりに努めます。
- キ 教育・福祉をはじめとする各行政機関と連携して、子ども読書活動の推進を図るための方策を検討し、取り組んでいきます。
- ク 充実した図書館運営を行うために、専任の図書館長の配置や、職員の増員について検討します。

② 機会の提供

- ア 対象の子どもに本が行き渡るよう、ブックスタート・セカンドブック事業の実施方法を見直します。
また、本を贈って終わりにならないよう、年齢に応じたブックリストを作成して配布し、保護者が家庭で日常的に読み聞かせを行うことを支援します。
- イ サードブック事業においては、希望する図書だけでなく、さまざまな本を手にとることで興味を抱き読書が習慣となるよう、ブックリストの本を学校図書館でも展示するなど、学校との連携を強化します。
- ウ 親子が一緒におはなしを楽しむ機会を増やすため、おはなし会や読書週間に合わせて行う行事の開催回数の増加、企画の充実を図ります。
- エ 保育園と幼稚園への定期巡回団体貸出を継続し、さらに児童センターなどへも貸出を行い、読書の機会の提供に努めます。
- オ 保育園などで読み聞かせやパネルシアターなどの出張おはなし会を行い、おはなしに触れる機会をつくります。
- カ 学校司書と連携して、学校での読み聞かせやブックトーク、アニメーション※10などの出張おはなし会を行い、読書離れが進む小学生や中学生、

※10 …何人かで同じ本を読み、その本について作戦と呼ばれる遊び（ゲーム）を行う。読書を楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を引き出す読書指導方法。

- 高校生が本のさまざまな楽しみ方を知るきっかけづくりに努めます。
- キ イベント情報や読書案内など、SNSも活用したさまざまな広報活動を行い、読書活動の周知と啓発に努めます。

③ 人材の育成・意義の普及

- ア 子どもの読書活動推進に関する専門的な研修に積極的に参加し、職員のスキルアップを図ります。
- イ 保育士や教員、司書を対象とした子どもの読書活動に関する研修会や読み聞かせ講座などを企画し、情報共有や意見交換を行い、連携強化と意識向上を図ります。
- ウ おはなし会や読書行事、ブックスタートなどの事業を幅広く展開できるよう、図書館ボランティアを育成し、子どもの読書活動の協働を進めます。
- エ 保護者や地域の大人を対象とした、読み聞かせ講座などを開き、交流の場とするとともに、子どもの読書活動の啓発を図ります。